

## >>> 図書探訪「いわきの文学者 -小説編-」>>>

星 新一 ほし・しんいち 大正 15 (1926) 年 9 月 6 日～平成 9 (1997) 年 12 月 30 日

星新一は、いわき市錦町出身の父・星一（ほしはじめ）と母・精（せい）の長男として、東京市本郷区駒込曙町（現在の東京都文京区）に生まれました。SF作家。本名の親一は、父・一がモットーとしていた言葉「親切第一」から名づけられました。東京大学農学部を卒業後、星製菓の経営にあたるかたわら、「日本空飛ぶ円盤研究会」に入会し、昭和 32 年日本最初の SF 同人誌「宇宙塵」の創刊に参画します。第 2 号にショートショート「セキストラ」を発表し、これが江戸川乱歩編集の「宝石」に転載され、作家になることを決意します。昭和 38 年の「日本 SF 作家クラブ」創設から参画し、日本 SF 界のパイオニアとして活躍するようになり、昭和 43 年『妄想銀行』および過去の業績によって、第 21 回日本推理作家協会賞を受賞しました。ショートショートという独自の分野を開拓し、『ポッコちゃん』など、1000 編を超える作品を生み出す一方、父・一の生涯を辿った伝記小説『明治・父・アメリカ』『人民は弱し官吏は強し』も発表しました。昭和 55 年いわき市で行われた「星一先生三十年祭追悼会」に出席した際、いわき市立勿来図書館へ図書購入費用 100 万円と蔵書 600 冊を寄贈し、蔵書寄贈はその後も続けられました。昭和 58 年にショートショート 1001 編を達成し、平成 9 年、71 歳の生涯を閉じました。

主な著作に『生命のふしぎ』『人造美人』『ようこそ地球さん』『悪魔のいる天国』『ボンボンと悪夢』『宇宙のあいさつ』『気まぐれ指数』『妖精配給会社』『花とひみつ』『夢魔の標的』『おせっかいな神々』『ノックの音が』『エヌ氏の遊園地』『気まぐれロボット』『人民は弱し官吏は強し』『妄想銀行』『進化した猿たち』『きまぐれ星のメモ』『盗賊会社』『マイ国家』『午後の恐竜』『ひとにぎりの未来』『殺し屋ですよ』『宇宙の声』『おみそれ社会』『ほら男爵現代の冒険』『声の網』『だれかさんの悪夢』『きまぐれ博物誌』『新・進化した猿たち』『未来いそっぷ』『ポッコちゃん』『なりそこない王子』『だれも知らない国で』『さまざまな迷路』『にぎやかな部屋』『ようこそ地球さん』『ちぐはぐな部品』『おかしな先祖』『殿さまの日記』『城のなかの人』『かぼちゃの馬車』『祖父・小金井良精の記』『ごたごた気流』『夜のかくれんぼ』『おのぞみの結末』『明治・父・アメリカ』『きまぐれ暦』『たぐさんのタブー』『どこかの事件』『安全のカード』『きまぐれ体験紀行』『明治の人物誌』『できそこない博物館』『ご依頼の件』『きまぐれフレンドシップ』『地球から来た男』『ありふれた手法』『きまぐれ読書メモ』『凶夢など 30』『きまぐれエトセトラ』『どんぐり民話館』『これからの出来事』『あれこれ好奇心』『つねならぬ話』『きまぐれ学問所』『きまぐれ遊歩道』『夜明けあと』『やっかいな関係』『気まぐれスターダスト』『天国からの道』があります。

吉野 せい よしの・せい 明治 32 (1899) 年 4 月 15 日～昭和 52 (1977) 年 11 月 4 日

吉野せいは、福島県石城郡小名浜町下町（現在のいわき市小名浜下町）の網元の家生まれました。作家。旧姓は「若松」。少女時代は電話交換手や小学校の准教員をしながら、山村暮鳥らの「LE・PRISME」に短歌を、「福島民友新聞」などに小説を発表していました。大正 10 年 3 月、三野混沌（みの・こんとん 本名＝吉野義也 よしの・よしや）と結婚し、それまで書いた原稿や日記を全部焼いて、石城郡好間村（現在のいわき市好間町）の菊竹山での開墾生活に入ります。結婚後は混沌が昭和 45 年 4 月 10 日に亡くなるまで、作品はほとんどありません。混沌の没後、草野心平に執筆を強く勧められ、昭和 46 年『暮鳥と混沌』を刊行します。それを読んだ「歷程」の同人、串田孫一に送られた「渚をたらしした神」「梨花」他 2 編は、孫一編集の雑誌「アルプ」に掲載され、昭和 49 年に彌生書房の津曲篤子により『渚をたらしした神』が刊行されるきっかけになりました。昭和 50 年に『渚をたらしした神』で第 15 回田村俊子賞と第 6 回大宅壮一ノンフィクション賞を 76 歳で受賞し、「百姓バツパ」の文学として世間に衝撃を与えました。昭和 45 年から 47 年まで、断続的に「いわき民報」に「菊竹山記」を連載しました。受賞後も執筆を続けていましたが、病気のため、昭和 52 年に 78 歳で亡くなりました。追善公演となった同年 11 月に小名浜の磐城市民会館で上演された、手織座による「渚をたらしした神」の益金が実行委員会よりいわき市へ贈られ、昭和 53 年に制定された「吉野せい賞」のきっかけになりました。

主な著作に『暮鳥と混沌』（昭和 46 年）、『渚をたらしした神』（昭和 49 年）、『道 吉野せい作品集』（昭和 52 年）、『吉野せい作品集』（平成 6 年）、『土に書いた言葉 吉野せいアンソロジー』（平成 12 年）があります。

河林 満 かわばやし・みつる 昭和 25(1950) 年 12 月 10 日～平成 20(2008) 年 1 月 19 日

河林満は、福島県石城郡植田町大字佐糠（現在のいわき市佐糠町）に生まれました。小説家。昭和 26 年、父の仕事の関係で東京都昭島市に移住します。都立立川高校卒業後、立川市役所に勤務。詩作にはじまり、18 歳から小説の習作をはじめ、地元の同人誌「群居」「裸馬」や雑誌「えん」に参加して創作活動を展開します。昭和 61 年亡くなった母とその郷土いわきへの慕情を綴った「海からの光」（後に小川国夫著に同名小説があるため「海辺のひかり」に改題）で第 9 回吉野せい賞奨励賞を受賞。昭和 63 年「ある執行」で第 7 回自治労文芸賞を受賞。平成 2 年「湯水」で第 70 回文学界新人賞を受賞。同作品は第 103 回芥川賞候補となり、NHK-FM でラジオドラマ化されました。平成 5 年文学界 5 月号に発表した「穀雨」が第 109 回芥川賞候補となりました。平成 7 年同人誌「文藝いわき」を立ち上げ、主宰します。平成 3 年から 19 年まで吉野せい賞選考委員を務めます。平成 10 年文筆生活を目指して立川市役所を退職。作家集団「塊」に参加し、「文芸思潮」や「季刊文科」などで作品を発表していましたが、病気のため、平成 20 年に 57 歳で亡くなりました。

主な著作に、『湯水』（平成 2 年）があります。

佐藤 武弘 さとう・たけひろ 昭和 18 (1943) 年 4 月 27 日～昭和 53 (1978) 年 7 月 25 日

佐藤武弘は、佐藤友弥・ヒサ夫夫婦の三男として福島県石城郡江名町字北口（現在のいわき市江名）に生まれました。ペンネームは「岩城武史」。江名小学校、江名中学校を経て、磐城高等学校に進学。文学部に所属して小説を書き、17 歳の昭和 35 年に「夏と秋の兄弟」で県文学賞 青少年文学奨励賞を受賞。立教大学文学部日本文学科、立教大学大学院博士課程（文学研究科）に進み、古典を研究し、『讃岐典侍日記』『更級日記』『成尋阿闍梨母集』に関する研究論文があります。高校教師や研究室助手を勤めながら、研究と創作を行いました。昭和 50 年「さよならの落葉たち」が毎日新聞社・毎日中学生新聞の第 25 回児童小説に佳作入選（昭和 51 年 6 月に毎日中学生新聞に連載）、昭和 52 年「それからの二人」が第 28 回小説現代新人賞を、「百川東して（ひやくせんひがしして）」が第 5 回三猿文庫賞を受賞し、将来を期待されていましたが、長い闘病生活の末、昭和 53 年に 35 歳で亡くなりました。昭和 54 年、いわき民報に遺作「虹のごとく 虹のごとく」が掲載されました。

主な著作に、『小説現代新人賞全作品 4』（昭和 53 年）、『佐藤武弘遺作集』（昭和 55 年）があります。

松村 栄子 まつむら・えいこ 昭和 36 (1961) 年 7 月 3 日生まれ 京都市在住。小説家。いわき応援大使。

静岡県湖西市で生まれ、以後、富山県、東京都、神奈川県、千葉県と転居し、昭和 42 年福島県いわき市に移ります。湯本第一中学校、磐城女子高校（現在の磐城桜が丘高校）を経て、筑波大学第二学群比較文化学類を卒業。平成 2 年、いわきの高校を舞台とした「僕がかぐや姫」で第 9 回海燕新入文学賞を、平成 4 年に筑波の大学を舞台とした「至高聖所（アバトーン）」で第 106 回芥川賞を受賞。平成 9 年よりインターネット上の茶道愛好家グループ「真ML 茶の湯 Community」に参画し、現在は茶道をテーマにした小説などを発表しています。平成 17 年から、福島県文学賞（小説・ノンフィクション部門、平成 21 年より小説・ドラマ部門に名称変更）の審査委員を務めています。

主な小説に『僕がかぐや姫』（平成 3 年）、『至高聖所（アバトーン）』『セラヴィ』（平成 4 年）、『紫の砂漠』（平成 5 年）、『001 にやさしいゆりかご』（平成 7 年）、『あした、旅人の木の下で』（平成 9 年）、『生誕』（平成 11 年）、『詩人の夢』（平成 13 年）、『雨にもまけず粗茶一服』（平成 16 年）、『Talking アスカ』（平成 19 年）、『風にもまけず粗茶一服』（平成 22 年）、エッセイに『あの空の色』（平成 4 年）、『ひよっこ茶人の玉手箱』（平成 12 年）、『京都で読む徒然草』（平成 22 年）、『ひよっこ茶人、茶会へまいる。』（平成 23 年）、アンソロジー本に『明日町こんぺいとう商店街』（平成 25 年）があります。

# ◇◇◇◇◇◇ 展示資料 ◇◇◇◇◇◇

掲載例：『書名』または「雑誌等名」 著者等名 出版社名 発行年月 (図書請求記号)

## 星 新一

- ◆「親切第一」 父・星一 書
- ◆『星新一の作品集』2・4・5・6・7・10・12・13・14・15・16・18 星新一 新潮社  
昭和49年7月・9～12月・昭和50年3月・5～9月・11月 (勿来図書館所蔵 918/ホ/2～18)
- ◆『ひとにぎりの未来』 星新一 新潮社 昭和44年3月 (SS/F/ホ)
- ◆『未来いそっぷ』 星新一 新潮社 昭和46年4月 (SS/F/ホ)
- ◆『殿さまの日』 星新一 新潮社 昭和47年11月 (SS/F/ホ)
- ◆『たくさんのお宝』 星新一 新潮社 昭和51年1月 (SS/F/ホ)
- ◆『ありふれた手法』 星新一 新潮社 昭和56年6月 (SS/F/ホ)
- ◆『凶夢など30』 星新一 新潮社 昭和57年4月 (SS/F/ホ)
- ◆『どんぐり民話館』 星新一 新潮社 昭和58年10月 (SS/F/ホ)
- ◆『これからの出来事』 星新一 新潮社 昭和60年7月 (SS/F/ホ)
- ◆『つねならぬ話』 星新一 新潮社 昭和63年11月 (SS/F/ホ)
- ◆『人民は弱し官吏は強し』 星新一 文藝春秋 昭和42年3月 (KS三猿/F/ホ)
- ◆『人民は弱し官吏は強し』 星新一 角川書店 昭和46年4月 (SK/F/ホ)
- ◆『人民は弱し官吏は強し』 星新一 新潮社 昭和53年7月・平成18年改版 (B/F/ホシ)
- ◆『明治・父・アメリカ』 星新一 筑摩書房 昭和50年9月 (AL/F/ホシ)
- ◆『明治・父・アメリカ』 星新一 新潮社 昭和53年8月・平成19年改版 (SAL/F/ホ)
- ◆『祖父・小金井良精の記』 星新一 河出書房新社 昭和49年2月 (SS/F/ホ)
- ◆『明治の人物誌』 星新一 新潮社 昭和53年12月 (SS/281/ホ)
- ◆『明治の人物誌』 星新一 新潮社 平成10年5月 (B/281.0/ホ)
- ◆『新・進化した猿たち』 星新一 早川書房 昭和46年3月 (SS/914.6/ホ)
- ◆『きまぐれ体験紀行』 星新一 講談社 昭和53年10月 (SS/914.6/ホ)
- ◆『きまぐれフレンドシップ』 星新一 奇想天外社 昭和55年3月 (SS/914.6/ホ)
- ◆『きまぐれ読書メモ』 星新一 有楽出版者 昭和56年6月 (SS/914.6/ホ)
- ◆『あれこれ好奇心』 星新一 角川書店 昭和61年5月 (SS/914.6/ホ)
- ◆『きまぐれ遊歩道』 星新一 新潮社 平成2年2月 (SS/914.6/ホ)
- ◆「6号線」第6・20号(記念号) 尼子会・6号線社 昭和52年12月・59年12月(AL/910.5/ロク)

## 吉野 せい

- ◆『暮鳥と混沌』 吉野せい 歷程社 昭和46年10月 (K/911.5/ヤ)
- ◆『暮鳥と混沌』 吉野せい 彌生書房 昭和50年8月 (AL/911.5/ヨシ)
- ◆「アルプ」第188号・190号・192号・194号・206号・211号 創文社  
昭和48年10・12月・昭和49年2・4月・昭和50年4・9月  
「湊をたらしめた神」「いもどろぼう」「飛ばされた紙幣」「梨花」「道」「白頭物語」掲載
- ◆『湊をたらしめた神 吉野せい作品集』 吉野せい 彌生書房 昭和49年11月 (SK/914.6/ヨ)
- ◆『湊をたらしめた神 吉野せい作品集』(普及版) 吉野せい 彌生書房 昭和50年4月 (AL/914.6/ヨシ)
- ◆『道 吉野せい作品集』 吉野せい 彌生書房 昭和52年4月 (AL/914.6/ヨシ)
- ◆『吉野せい作品集』 吉野せい 彌生書房 平成6年8月 (AL/918/ヨシ)
- ◆「歷程」1970年8月号 No.143 三野混沌追悼号 歷程社 昭和45年8月 (K/911.5/レキ)
- ◆「文藝春秋」5月特別号 大宅壮一賞発表 文藝春秋 昭和50年5月 (S/Z)
- ◆「6号線」創刊号 尼子会 昭和50年5月 「袱紗の女(ふくさのひと)」掲載 (AL/910.5/ロク-1)
- ◆「6号線」第2号 尼子会 昭和50年11月 「石垣」掲載 (AL/910.5/ロク-2)
- ◆「6号線」第6号 吉野せい追悼号 尼子会 昭和52年12月 (AL/910.5/ロク-6)
- ◆『民衆史としての東北』 眞壁仁編 日本放送出版協会 昭和51年12月 (SK/210.1-2/マ)
- ◆「あるとき」創刊号～第5・7号 彌生書房 昭和53年5・6・7・8・9・11月「日記 梨花鎮魂(1)～(4)」「ノートより」「菊竹山記 草の味噌汁・暴風時代の話」掲載 (AL/910.5/アル-1～7)
- ◆『土に書いた言葉 吉野せいアソビ』 山下多恵子編 未知谷 平成21年2月 (AL/914.6/ヨシ)
- ◆『菊竹山記 吉野せい作品集』 いわき市立中央図書館 (K/918/ヨシ)

## 河林 満

- ◆「6号線」第24号 6号線社 昭和62年4月 小説「海からの光」掲載 (AL/910.5/ロク-24)
- ◆『福島県文学全集 小説編6』 郷土出版社 平成13年10月 (AL/918/フク-6)
- ◆『湧水』 河林 満 文藝春秋 平成2年8月 (AL/F/カワ)

- ◆『芥川賞全集 第15・16巻』文藝春秋 平成14年4・6月(AL/913.6/アク-15・16)
- ◆「うえいぶ」第13号 いわき地域学会 平成6年7月 小説「署名」掲載(AL/051/ウ-13)
- ◆「うえいぶ」第15号 いわき地域学会 平成7年8月(AL/051/ウ-15)
- ◆「文藝いわき」創刊号～6号 河林満 編 文藝いわき事務局 平成9年1月・平成9年10月・平成10年12月・平成12年5月・平成14年3月・平成17年3月(AL/910.5/ブン-1～6)
- ◆『いま、文学が新しい』 いわき市教育委員会 平成10年1月(AL/904/イワ)
- ◆「文芸思潮」第23号 アジア文化社 平成20年5月 追悼 河林満(AL/910.2/カイ)

## 佐藤 武弘

- ◆「さよならの落葉たち」昭和51年6月より 毎日中学生新聞で連載(K/F/サト)
- ◆「6号線」第5号 尼子会 昭和52年6月 小説「百川東して」掲載(AL/910.5/ロク-5)
- ◆「小説現代」昭和52年6月号 講談社 昭和52年6月 第28回小説現代新人賞発表
- ◆「月刊ふくしま」1977.6 福島県広報協会 昭和52年6月 「こんぺい糖の話」掲載
- ◆「JJ」1977年8月号 光文社 昭和52年8月 エッセイ「Sの思い出。」掲載
- ◆『小説現代新人賞全作品4』講談社 昭和53年4月「それからの二人」収録(SS/913.6/シ)
- ◆「6号線」第8号 尼子会 昭和53年12月「王朝女流日記作者とその母たち」(AL/910.5/ロク-8)
- ◆『佐藤武弘遺作集』佐藤友弥 昭和55年3月(AL/F/サト)
- ◆「6号線」第11号 尼子会 昭和55年7月「行き行きて(遺稿)」掲載(AL/910.5/ロク-11)
- ◆「うえいぶ」第44号 うえいぶの会 平成23年3月「エデン-佐藤武弘遺稿-」(AL/051/ウ-44)
- ◆「虻(あぶ)のごとく虹(にじ)のごとく」昭和54年1月より いわき民報新聞で連載

## 松村 栄子

- ◆「闘伽井(あかい)」第35号 福島県立磐城女子高等学校文芸部 昭和54年9月(DK/910.2/コア-35)
- ◆『僕はかぐや姫』松村栄子 福武書店 平成3年5月(AL/F/マツ)
- ◆『至高聖所(アバトーン)』松村栄子 福武書店 平成4年2月(AL/F/マツ)
- ◆『芥川賞全集 第16巻』文藝春秋 平成14年6月(AL/913.6/アク-16)
- ◆『セラヴィ』松村栄子 福武書店 平成4年10月(AL/F/マツ)
- ◆『紫の砂漠』松村栄子 新潮社 平成5年8月(AL/F/マツ)・角川春樹事務所 平成12年10月
- ◆『001にやさしいゆりかご』松村栄子 ベネッセコーポレーション 平成7年4月(AL/F/マツ)
- ◆『あした、旅人の木の下で』松村栄子 角川書店 平成9年7月(AL/F/マツ)
- ◆『生誕』松村栄子 朝日新聞社 平成11年4月(A/F/マツ)
- ◆『詩人の夢』松村栄子 角川春樹事務所 平成13年2月(AL/F/マツ)
- ◆『雨にもまけず粗茶一服』松村栄子 マガジンハウス 平成16年7月(AL/F/マツ)・ポプラ社 平成22年3月
- ◆『Talking アスカ』松村栄子 ジャイブ 平成19年1月(AL/F/マツ)
- ◆『風にもまけず粗茶一服』松村栄子 マガジンハウス 平成22年12月(AL/F/マツ)・ポプラ社 平成26年1月
- ◆『明日町こんぺいと商店街』ポプラ社 平成25年12月(AL/F/マツ)
- ◆『あの空の色』松村栄子 マガジンハウス 平成4年10月(SS/914.6/マ)
- ◆『ひよっこ茶人の玉手箱』松村栄子 マガジンハウス 平成12年4月(AL/791/マ)
- ◆『京都で読む徒然草』松村栄子 京都新聞出版センター 平成22年6月(AL/914.4/ヨシ)
- ◆『ひよっこ茶人、茶会へまいる。』松村栄子 朝日新聞出版 平成23年8月(AL/791/マ)

## ◇◇◇◇◇◇◇◇ 参 考 資 料 ◇◇◇◇◇◇◇◇

掲載例：『書名』 著者等名 出版社名 発行年月 (図書請求記号)

- ◆『ふくしまの文学展 浜通り編』いわき市立草野心平記念文学館 平成21年10月(AL/910.2/フク)
- ◆『ふくしま文学のふる里100選』福島県教育庁文化課 平成6年3月(AL/910.2/フク)
- ◆『星新一・星一展』いわき市立草野心平記念文学館 平成27年10月(K/910.2/ホシ)
- ◆『別冊新評 星新一の世界』新評社 昭和51年12月(K/910.2/ホ)
- ◆ 星新一公式サイト <http://www.hoshishinichi.com/> (最終アクセス 2016.2.23)
- ◆『吉野せい作品集』吉野せい 彌生書房 平成6年8月(AL/918/ヨシ)
- ◆『吉野せい展 図録』いわき市立草野心平記念文学館 平成11年10月(AL/910.2/ヨシ)
- ◆『福島県文学全集 小説編6』郷土出版社 平成13年10月(AL/918/フク-6)
- ◆「文芸思潮」第23号 アジア文化社 平成20年5月(AL/910.2/カイ)
- ◆『佐藤武弘遺作集』佐藤友弥 昭和55年3月(AL/F/サト)
- ◆『芥川賞全集 第16巻』文藝春秋 平成14年6月(AL/913.6/アク-16)
- ◆ Eiko's works 松村栄子の著作 <http://air.ap.teacup.com/works/> (最終アクセス 2016.2.23)

会 期：平成28(2016)年2月24日(水)～5月22日(日)  
 会 場：いわき市立いわき総合図書館 5階 企画展示コーナー